

# 調査・研究活動

ふざけた展示も科学的な土台があってこそ！

学術的な社会貢献、サイエンスを重視する姿勢は水族館時代から続くスマスイの大きな特徴です。ふざけたような展示やイベントも、実は科学的な裏づけをもって、まじめなことや生きものの面白さを伝えようとしてきました。スマスイで知的好奇心を存分に刺激してもらいたい！ 職員も知的興奮を味わい続けたい！ そして野生生物を飼育するものとして、生態系保全に貢献するために。指定管理者として民間での運営になってからも、いや、なったからこそ、スマスイでは数多くの調査や研究活動など、幅広く取り組んできました。このコーナーでは、その一端をご紹介します。

## 神戸賞



第1回 助け合って生きるエビ  
J. Emmett Duffy 博士 (アメリカ)

第2回 シーラカンスの生態解明  
Hans Fricke 博士 (ドイツ)

第3回 大型鯨類の行動生態  
Patrick J. O. Miller 博士 (イギリス)

第4回 アマゾンマナティとカワイルカ  
Vera M. F. da Silva 博士 (ブラジル)

第5回 ウミガメ類の集団遺伝学  
Brian W. Bowen 博士 (ハワイ)



第6回 プロメリアガニは母娘で子育て  
Rudolf Diesel 博士 (ドイツ)

第7回 海鳥たちの大航海  
Henri Weimerskirch 博士 (フランス)

第8回 魚はかしこい生き物だった！  
Redouan Bshary 博士 (スイス)

第9回 カメ類の音声コミュニケーション  
Camila R. Ferrara 博士 (ブラジル)

水族館が賞をつくって、外部の研究者を表彰する制度があるのはスマスイくらい。賞金は100万円。世界中の研究者から毎年一人を選び、神戸で行う授賞式では市民向けにわかりやすく面白くその研究成果を講演してもらっています。各受賞者とその研究内容についてはうみと水ぞくの9月号に毎年掲載されています。